

## 産業用C重油 値上げ

### ENEOS 7～9月4割高

ENEOSは28日、産業用ボイラー燃料として使うC重油の7～9月期の大口需要家向け価格を前期（4～6月期）に比べ4割引き上げると表明した。原油相場が底堅く推移していることや経済活動の再開で船舶燃料に使う重油の需要が上向いていることを映した。引き上げは5期ぶり。

主に製紙会社を使う高硫黄C重油（硫黄分3・0%）は前期比9450円（38%）高い1キロリットル3

を目指して製紙大手と交渉する見通し。発電用に使う低硫黄C重油（硫黄分0・3%）は同4万1890円と前期比7770円（23%）引き上げる。



# ウメモト インフラオメーション



2020年 7月 29日

担当者：小松

## 国内広告費13%減

### コロナ影響で下方修正

20年度予測

日経広告研究所は2020年度の国内の広告費が19年度比で13%減になるとの見通しをまとめた。2月時点で微増の見通しだったが、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞を受け、下方修正した。四半期別では4～6月期が前

年同期比23・3%減と、リーマン・ショック後の09年4～6月期(17・5%減)よりも落ち込み幅が大きくなる。

外出自粛やイベントの中止などで、交通・レジャー業界からの広告出稿が減っている。7～9月期は10・4%減と改善す

るが、新型コロナウイルスの感染状況次第では企業の出稿意欲が再び弱まる恐れがあるとする。

媒体別ではテレビ広告が19年度比14・8%減の見込み。東京五輪・パラリンピックの延期による影響も大きい。成長を続けるネット広告は企業の広告費削減の影響を受け、20年度も0・5%増とプラスを維持する見通し。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



2020 年 7 月 29 日

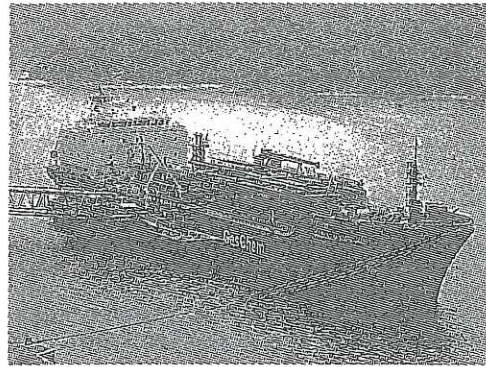
担当者: 若崎

## 丸 紅

# 中国で石化物流機能拡充

## 上海法人主体で用船

【上海―但田洋平】丸紅は、中国の石油化学事業の強化の一環として物流機能を拡充する。中国の国内取引や用船に関する契約締結、履行を上海現地法人が主体的に担うことで、事業の幅を広げる。よりの機動的で柔軟なトレーディングを実現したい考え。2019年末にはすでに同法人が溶融硫黄の用船契約も締結している。今後は実績のあるプロピレンに続き、エチレンを含めたオレフィン分野をメインに手がけていく。



丸紅が用船したオレフィン専用船

丸紅は、自社船団を擁してアジアで150万ト規模のエチレンを取り扱

うなど、オレフィンモノマー分野の洋上トレードにおいて確固たるポジション

を築いてきた。他方、中国国内でのトレードでは、外国籍船の利用は困

難で、許認可にも時間を要するなど事業拡大に課題を抱えていた。

中国では現在、国有大手企業に加え、恒力集団や浙江石化などの民間主導の大型石油精製・石化設備が立ち上がってきており、国内取引のビジネスチャンスが拡大しつつある。同社上海法人が主体となって用船契約を締結することで、現地ニーズに則した機動的できめ細かいトレーディングに踏み出す。

昨年末には溶融硫黄の用船契約を締結している。浙江石化などの大規模プラントが相次ぎ本格稼働を迎えており、副産する硫黄の量も拡大している。丸紅は硫黄のトレードを得意とし、これまで日本や韓国の玉を中国を含めたアジアに供給してきた。中国においては数船しかない硫黄船を確保することで、揚子江沿岸を中心に、国内の硫酸、肥料メーカーに供給していく計画。

さらには、エチレンやプロピレンなどオレフィンを中心に中国での取り扱いを今後増やしていく。

難で、許認可にも時間を要するなど事業拡大に課題を抱えていた。

中国では現在、国有大手企業に加え、恒力集団や浙江石化などの民間主導の大型石油精製・石化設備が立ち上がってきており、国内取引のビジネスチャンスが拡大しつつある。同社上海法人が主体となって用船契約を締結することで、現地ニーズに則した機動的できめ細かいトレーディングに踏み出す。

昨年末には溶融硫黄の用船契約を締結している。浙江石化などの大規模プラントが相次ぎ本格稼働を迎えており、副産する硫黄の量も拡大している。丸紅は硫黄のトレードを得意とし、これまで日本や韓国の玉を中国を含めたアジアに供給してきた。中国においては数船しかない硫黄船を確保することで、揚子江沿岸を中心に、国内の硫酸、肥料メーカーに供給していく計画。

さらには、エチレンやプロピレンなどオレフィンを中心に中国での取り扱いを今後増やしていく。